

INDEX

- | | | | |
|----|------------------------|----|----------------------------|
| 01 | 融資がつむぐまちづくり | 17 | 人とつながる、世界が広がる、わたしのJFMダイアリー |
| 05 | がんばる公営競技 | 19 | 私たちもJFM債買っています! |
| 07 | JFM Topics | 19 | 編集後記 |
| 11 | 利用してみよう! 地方支援事業 | 19 | 機構からのお知らせ |
| 15 | ファイナンス博士のみんな気になる、お金のこと | | |

大阪府寝屋川市

住宅都市と共存共栄する
環境学習の拠点

寝屋川市クリーンセンター



大阪府寝屋川市

事業区分 >>>

一般廃棄物処理事業

地方公共団体金融機構
資金の活用により、老朽
化したクリーンセンターの
更新を果たした事例をご
紹介します。



住宅都市と共存共栄する環境学習の拠点

大阪府寝屋川市

寝屋川市クリーンセンター

従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、
廃棄物の抑制に加え、資源として利用する循環型社会への移行が求められています。
そうした中、2018年3月のリニューアルにより、
地域住民の環境学習拠点へと変化を遂げた寝屋川市クリーンセンター。
約23万人の寝屋川市民の生活を支え、環境という側面から地域社会に貢献しています。



環境安全を学べる設備が充実しており、市内すべての小学生が社会科見学で訪れます。

所在地: 大阪府寝屋川市寝屋南一丁目2番1号
竣工: 2018年3月30日
建築面積: 2,749.39㎡(工場棟)
ごみ処理能力: 200t/日(100t/日×2炉)
鉄骨鉄筋コンクリート造で、地上6階、地下1階の構成。

寝屋川市クリーンセンターって？

大量のごみを処理するとともに ごみの減量や活用も担う施設

寝屋川市クリーンセンターは、1日で100トンものごみ処理能力を持つ焼却炉を2炉有し、約23万人の寝屋川市民の生活から発生するごみを処理しています。また、ごみ処理のみならず、ごみ減量につながる活動に注力している点も施設の特徴です。例えば、ごみ減量の施策やリサイクル活動の重要性を知っていただく「ごみ減量マイスター認定講座」といった啓発活動を実施。講座の修了者を「ごみ減量マイスター」と認定し、資源循環型社会の実現に向けて、市民の方々との協働を図っています。

さらに、自家発電の機能をもつのも特色です。ごみ焼却エネルギーや太陽光により発電を行い、施設で使う電気をまかなうと同時に、電力会社に売電することで市の財政に還元しています。

環境保全の意識を高め 資源循環型社会の形成に貢献

寝屋川市は、ごみと向き合う上で「資源化で やさしさをめぐる寝屋川市」という基本理念を掲げています。この理念に基づき、寝屋川市クリーンセンターは、ごみを「市の資産」と考え、市民の方々にごみの再資源化の重要性を周知しています。

代表例が小学生の施設見学です。寝屋川市には24の市立小学校があり、全小学校の4年生が環境学習の一環としてクリーンセンターを訪問。多目的室を活用した映像学習を実施するとともに、ごみ処理の過程で電気を生み出す発電機や、ごみの資源化などを図解した展示などを見学いただいています。

自治会の方々が訪れる機会も多く、環境学習の拠点として市民全体の環境保全への意識を底上げすることで、資源循環型社会の形成に貢献しています。



寝屋川市
環境部 環境総務課
菅原さんの
見どころ
CHECK!



全自動 制御の 焼却炉

新しい焼却炉には、ごみの性質を検知して自動で燃焼制御を行うシステムを導入。24時間稼働で「安心・安全・安定」の焼却炉運転を支えています。

センターの 心臓 中央制御室

施設全体の運転管理を集中管理する「センターの心臓」です。ガラス越しに見学者は安定した焼却と発電を支える仕事の様子を見ることができます。



ごみ処理を 体感し、 考える 見学コース

グラフィックな見学通路には、ごみクレーンの操縦席やクイズ端末などを備えており、ごみ処理について体感しつつ、考えることで楽しみながら学ぶことができます。



ごみ焼却時の 余熱を 利用する ごみ発電機

ごみ焼却時の熱を利用して電気を生み出しています。捨てられるエネルギーの活用は、CO₂排出量の削減につながり、資源循環型社会へ貢献しています。



資源循環型社会を支える！寝屋川市クリーンセンター

安全かつ安定したごみ処理で寝屋川市の環境を支え、市民に親しまれる環境学習拠点となった寝屋川市クリーンセンター。施設の特徴や取り組みについて、寝屋川市環境事業課の高田哲治さんにお話を伺いました。

Interview

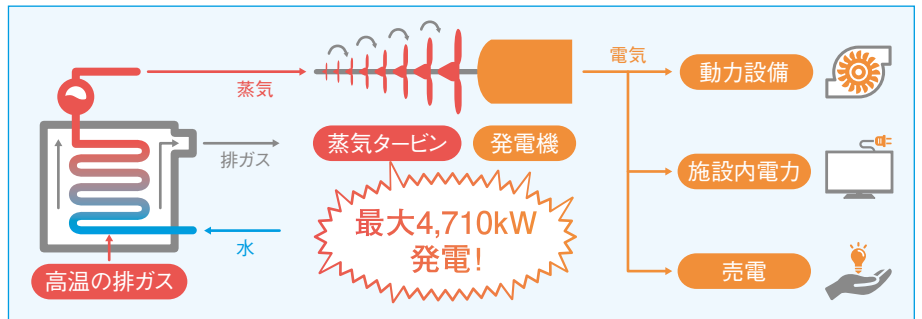
人と環境にやさしい街づくりの拠点として、資源循環型社会の形成に貢献していきたい

市民の声を基に、より安心・安全な施設にリニューアル

新ごみ処理施設の建設基本計画の検討を開始したのは2010年。1980年から使用していた焼却施設の老朽化に伴う処理能力の低下や、機器の機能低下がきっかけでした。新施設の検討にあたっては、地域住民のニーズを伺った上で検討を重ねました。建設地については、人口密度が高く遊休地が少ない市の特性などから、クリーンセンター敷地内のストックヤードを活用することとしました。また、新施設に求められる要素を踏まえ、安全かつ市民に親しまれる施設となるよう、地域との対話を繰り返しました。

安全な施設という面では、有害物質等の測定項目について法令基準値より厳しい自主基準値を設定し、遵守しているほか、災害時の拠点としての機能をもたせている点が特徴です。新施設では自家発電が行えるため、被災した際にも電気の確保が可能です。1995年の阪神・淡路大震災の経験も踏まえ、施設内にはシャワールームや多目的室を設けており、これらの設備は、有事の際だけでなく、地域住民の方々はいつでも使用いただくことができます。

■ごみ焼却エネルギーによる発電の仕組みと電気の活用方法



目指したのは、体験を通して楽しく学べる環境学習拠点

資源循環型社会の推進を目的に、新施設には、地域の方々にごみ処理の現状を知っていただき、ごみ処理についての学び場としての環境学習機能を充実させています。見学コースの整備にあたっては、ごみ処理における市民・事業者・行政のそれぞれの役割を理解いただき、環境保全に対する生活行動につながる工夫を凝らしました。コンセプトは「市民に親しまれる施設」です。市職員でアイデアを出し合い、焼却炉の中を体感できるグラフィックな通路や、ごみクレーンの操縦席、ごみ処理にまつわるクイズ端末など、誰にでもわかりやすく、体験を通して楽しく学んでいただける形としました。

また、寝屋川市クリーンセンターでは、「ふれあい訪問収集」として、ごみステーションへのごみ出しが困難な高齢者などを対象に、市職員が戸別訪問してごみ収集をする取組もっており、「地域の見守りの目」としての役割も果たしています。

これからも、地域を支えるシンボルとして、資源循環型社会に向けた環境学習拠点として、人と環境にやさしい街づくりに邁進していきます。



寝屋川市 環境部
環境事業課 次長兼課長
たかだ てつじ
高田 哲治



ごみ焼却エネルギーを利用した発電の仕組みを学べる体験コーナー。



各種測定値は、センターの玄関口で常時知ることができます。

ご当地紹介

大阪府寝屋川市



地名の由来は古代の生駒山麓に広がった牧場人の「寝屋」とされており、居住地として悠久の歴史をもつ寝屋川市。「寝屋川市はわが家のようにあったかい」や回文でもある「ワガヤネヤガワ」というキャッチフレーズが示すとおり、人と人とのつながりを大切にしています。

■人口:231,604人

■世帯数:110,151世帯

■面積:24.73km²

(令和2年2月1日現在)

歴史ある居住地の証、石宝殿古墳

国の史跡に指定されている石宝殿古墳。市の東端の丘陵にあり、巨石によって築かれた7世紀の古墳と考えられています。5世紀につくられたとされる市指定史跡の太秦高塚古墳や、大阪府指定史跡の寝屋古墳などもあり、寝屋川市は1500年以上にわたって人々が暮らし続けてきた歴史ある地域といえます。



駅舎を貫くご神木、萱島駅のくすのき

大くすのきが駅舎を突き抜ける姿が特徴的な萱島駅。萱島駅の工事の際に、地元の人々のくすのきに寄せる尊崇の念に応え、駅のホーム・屋根に空間を設けて大切に保存しています。その特徴的な姿から、「大阪府みどりの百選」に選ばれているほか、2009年には「新寝屋川八景」に選定されています。



桜の季節を食で楽しむ、桜スイーツ

寝屋川市では、市の新たな魅力発信のため、市の木・桜をイメージしたスイーツづくりや、打上川治水緑地の「桜のライトアップ」などの桜を通したにぎわいづくりに取り組んでいます。桜のライトアップ会場などで販売される桜スイーツは、桜の季節を食でも感じられる逸品です。



数字で見る! 寝屋川市のごみ減量活動

ごみ減量プロジェクト —“1万トン減らそう” 未来のために!!—

寝屋川市では、2017年度から2019年度の3カ年で焼却ごみ量を10,000トン減量するプロジェクトを推進しています。この数値は、家庭におけるごみ出しの工夫により達成可能であり、各種広報や出前講座などを通じて取組を進めています。

■寝屋川市民が実践するプロジェクト達成に向けた3つの取組



3つの取組を実践することで、
焼却ごみ量 **10,000トン** の削減を目指しています。

JFMスタッフ Message



融資部
融資課
大阪府担当
瀧口 達哉

一般廃棄物処理事業は、し尿処理施設・ごみ処理施設・清掃運搬施設等に係わる事業を対象とした事業債であり、令和元年度地方債同意・許可分より、地方の政策ニーズに応える形で、償還期限を15年から20年に延長しています。平成30年度においては、全国の地方公共団体に対し、118件、総額約127億円の貸付けを実施しました。

4月から新年度が始まり、機構資金に初めて携わる方も多くいらっしゃるかと思います。借入事務にあたり、ご不明な点などございましたら、お気軽に融資部各領域担当までご相談ください。